



板八小コミュニティ・スクールだより

令和4年度 第2号
板橋区立板橋第八小学校
校長 川村 聡
令和4年6月30日(木)

第2回 板橋区コミュニティ・スクール(iCS)委員会報告

開催日時: 令和4年6月21日(火) 10:30~12:30
次第:

- (1)挨拶 委員長 小川 弘行
- (2)活動報告(学校生活・学校支援地域本部)

日光移動教室報告
今年度は2泊3日で行くことができました。帰ってきた翌日土曜授業プランで体力テストの様子を参観していただきました。保護者方々にボランティアをしていただきました。



(3) 授業参観



1年生の初めての水泳学習や高学年の英語学習の様子を参観していただきました。

(4) 学びのエリアについての熟議

(5) 給食試食

- メニュー
- みそラーメン
- カルシウムビーンズ
- 牛乳



● 学びのエリアについて

- 板橋第三中学校・板橋第一小学校・板橋第八小学校・中根橋小学校の4校が集まって学びのエリア「板三エリア」と言われています。
- 9年間の義務教育を通して一貫した教育理念の下、以下のような子ども像を目指します。
- ○基礎学力を習得し、その活用ができる児童・生徒
- ○他者と協働しながら、自ら考え判断できる児童・生徒
- ○心身ともに健康で、豊かな人間性を身に付けた児童・生徒
- その目指す子ども像に迫るために、具体的には
- ・中学校・小学校をそれぞれの授業参観を1回ずつ行う。(今年度の小学校の授業は板橋第八小学校が2月14日(火)に行う。)
- ・中1ギャップの解消を図るために、学びの連続性を意識した授業を実施する。(6年生の中学校体験授業10月26日(水))
- ・9年間を通した「確かな学力」の育成を掲げ、特に国語・算数・英語では、小中学校で連携して、『小学校のまとめテスト』を独自実施する。
- 等、行っています。
- さらに、今度の7月5日(火)には、中学生が挨拶運動を小学校で行います。

● 委員の皆様から(順不同)

- ・板八の子どもは、学びのエリアの中ではどのような存在なのか。子どもの雰囲気も変わり人数も増えたことから板八の勢力は以前に比べて増えたのか。
- ・小中一貫とは言っているが、連携にとどまっている。教員の態勢を変えていかないと、一貫教育はできないではないか。
- ・授業参観で見た小学校の英語の授業は中学校レベルのことをしているように思う。また、小学校から中学校にはほとんど同じ小学校の友達と上がっていくが、小学校入学は様々な幼稚園・保育園から一人で入学して来ることが多い。保育園、幼稚園との連携も大事であり、コロナ禍で参観が自由にできないが、未就学児が小学校を見られるようになるとよい。
- ・板三エリアの特長を出すと良い。例えば「9年生で、英検2級を取得する」など具体的な目標があるとよい。
- ・板三エリアの中でも板八小を選んでもらえるような、本校の良さを出してほしい。コロナ禍になる前には、親子で参加できるイベントや異学年交流をする場面を見る機会がたくさんあった。
- ・コロナ禍でいろいろなことが変わりそれが2年も続いたことで、行事の進め方も今までとは違う形になった。保育園としては、小学校につながるために何をすべきなのか知りたい。保育園では床の上に座って活動することが多いが、小学校から「机の上でできることも増やしてください。」と言われ、折り紙やおえかきなどをやる時間を設けるようになった。これは小学校6年生から中学校に向けても同じだと思う。
- ・板八の子は外向きに動いていないと思う。この前の地域センターのイベントへの参加がほとんどなかった。ジュニアリーダーやキャンプの申し込みも少ない。校外の活動に目が向いていないのはなぜなんだろうか。学校がもっと積極的に地域に目を向けさせるべきである。
- ・ChromeBookの活用に差が中学校と小学校ではある。そこも中1ギャップにつながっている。

次回 令和4年10月13日(木)10:00~

内容:本校の特色について考える(異学年交流・学級活動の日について)

